

事務事業名	子ども読書活動応援センター事業	事業期間	2006 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	連絡先	75-1250	

政策番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0105	子どもたちの言葉と心を育む	高
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える	
		実行計画	02	子ども読書活動推進計画	0208	子ども読書活動応援センターにおける読書活動の推進	
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	
予 算 事 業 名	子ども読書活動応援センター事業費				会計コード	01 款 10 項 05 目 07 事業 01	
事務事業の概要	平成18年4月に「第1次茅野市子ども読書活動推進計画」（ちの子ども読書の森づくりプラン）が策定され、現在「第3次子ども読書活動推進計画」（平成30年～平成35年）をもとに、「ことばとこころを育てる読書活動」を進めるため、公民協働で全市的に読書活動に取り組んでいる。子どもの読書に関してサポートする「子ども読書活動応援センター」には、専門知識をもった嘱託職員と臨時職員2名を配置し、読書活動の推進を図る。 主な業務：茅野市調べ学習コンクールの実施・読書ボランティアへの援助・学校図書館支援・子ども読書の日の推進						
現状と背景	「第1次子ども読書活動推進計画」から重点事業として取り組んでおり、「茅野市小中高調べ学習コンクール」をきっかけに、教科で学校図書館を利用する小中学校が増え、参考図書資料の需要が増えたことから、平成27年度に図書館振興財団事業の助成金を受け参考図書資料を応援センターに備えることができた。今後は、購入した参考資料の利用促進と学校図書館利活用の支援を図る。						
目的	受益者	胎児期を含む概ね0～18歳までの子ども					
	対象	胎児期を含む概ね0～18歳までの子ども					
手段・方法	意 図	読書が好きな子ども、発達段階に応じた情報リテラシーの力をつける。					
	（どんな状態にしたいか）	・園への絵本時間見学会実施 ・調べ学習コンクール実施と推進のための小中学校への職員研修や出前授業の実施 ・参考図書資料の貸し出しとワークシートの作成 ・学校図書館図書整備（選書・配架等）のための支援と相談 ・読書ボランティアが主体的・意欲的に参加していただける交流会の実施 ・平成27年度購入資料（朝日ジュニア学習年鑑70冊、日本のすがた40冊、日本国勢図20冊、世界国勢図会20冊、百科事典ポプラディア2セット、ポプラディア情報館50冊1セット、を希望する学校図書館に貸し出し調べ学習の支援を行う。					
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1 調べ学習作品の質の向上	調べ学習親子相談会 受講者数	人	年間の受講者数	20	
		2 読書ボランティア交流会の開催	読書ボランティア交流会参加者数	人	年間の参加者数	80	
	3 学校図書館の充実	司書教諭の会開催数	回	年間の開催数	3		
成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値		
	1 全国コンクール入賞作品数を増やす	全国コンクール入賞作品数	数	年間全国コンクール入賞作品数	10		
	2 第3次子ども読書活動推進計画進捗状況	施策の進捗状況5段階評価平均点数	点	活動の場ごとの施策の進捗状況5段階評価平均点	4		

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	6,358,116	6,596,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	6,358,116	6,596,000				
	活動指標	調べ学習親子相談会 受講者数	目標	人	20	20		
			実績	人	20			
達成率		%	100.00	-	-	-		
読書ボランティア交流会参加者数		目標	人	80	80			
		実績	人	70				
達成率		%	87.50	-	-	-		
司書教諭の会開催数	目標	回	2	2				
	実績	回	1					
達成率	%	50.00	-	-	-			
成果指標	全国コンクール入賞作品数	目標	数	10	10			
		実績	数	12				
	達成率	%	120.00	-	-	-		
	施策の進捗状況5段階評価平均点数	目標	点	4	4			
実績		点	4					
達成率	%	100.00	-	-	-			
備 考								

事務事業名	こども読書活動応援センター事業		事業期間	2006 ~	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係			連絡先	75-1250

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 （ C H E C K ） 改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	（成果） 変 動 指 要 標 因 分 析	参考図書資料の活用が周知され計画的に運用されている。 調べ学習コンクール全国入賞作品奨励賞以上の作品数が増え、層が厚くなる。 読書ボランティア活動の団体数前年度より1団体増える。					
	総合評価	調べ学習コンクールへの児童生徒、教職員の理解が深まり、周知されるようになった。参考図書資料の利用も増えた。 年2回の読書ボランティア交流会はワークショップや実演、絵本講座を実施し、好評だった。					
	課題	調べ学習コンクールへの中学校での取組の工夫や、保護者の理解を進めるための取組が必要。 司書教諭会の計画的な実施。 読書ボランティアの高齢化					
改革・改善の方向性	成果 コスト	現状維持 現状維持					
改善の方向性の内容	成果 コスト	現状維持。調べ学習コンクール作品の質の向上を図るため、参考図書資料の活用を促し、スキルアップを図り、情報リテラシーの力をつけていきたい。また、調べ学習相談会を開き、保護者の理解をさらに進めていきたい。「調べ学習ナビ」をさらにわかりやすく改訂する。 読書ボランティア交流会は若い層の読書ボランティアにも関心をもってもらえるように内容を検討する。 司書教諭会を計画的に実施し、学校司書と連携し学校図書館の機能の充実を図る。					

作成担当者	伊藤 研一				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	読りむちの活動支援事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	連絡先	75-1250	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0105	子どもたちの言葉と心を育む		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	02	こども読書活動推進計画	0202	地域における読書活動の推進		

予算事業名	読りむちの活動支援事業	会計コード	01	款	10	項	05	目	07	事業	02
-------	-------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
(簡潔にわかりやすく)  
・パートナーシップの手法により、事業を展開し、地域の教育力を高め、生涯学習とまちづくりさらに市民力の向上を図る。  
・読りむちの推進活動事業…次代を担う子どもの「ことばとこころを育てる読書活動」の推進。

現状と背景  
(どうして)  
子どもの生活時間や物事への興味、関心も多様化し、子どもたちの読書離れ、文字離れによる思考力の低下が叫ばれており、心豊かに人生を生きる力が今求められている。そのために、次代を担う子どもの「ことばとこころを育てる読書活動」を推進することの必要性が出てきた。

目的  
対象  
受益者(誰のために)  
乳幼児、幼保小中高生、広く市民一般  
対象(直接働きかける)  
同上  
意図(どんな状態にしたいか)  
・ことば体験を推進し、読書の楽しみや読書の力を生かすことによりまちづくり、ひとづくりにつなげていくために補助を行う。

手段・方法  
(どうやって)  
・ファーストブック・セカンドブックプレゼント  
・幼保小中高の全校の朝読書推進活動  
・読書環境向上に向けての活動(講演会の実施)  
・地域に根をはった読書活動等の実践(おはなし会の実施)  
・広報誌の発行

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	ファーストブックプレゼント事業の充実	プレゼンター数	人	プレゼンター数	30
		2	読書ボランティア組織活動支援	博報賞文庫貸出冊数	冊	年間貸出冊数	200
		3	読書ボランティア組織の充実	講演会の参加者数	人	講演会の参加者数	200
変更履歴							

成果指標	成果指標	成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	博報賞文庫貸出者の満足度	博報賞文庫貸出者満足度	%	5段階評価のアンケートで5と回答された数 ÷ 全回答数 × 100	80
		2	講演会参加者の満足度	講演会参加者満足度	%	5段階評価のアンケートで5と回答された数 ÷ 全回答数 × 100	80
		変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	2,143,802	2,251,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	2,143,802	2,251,000			
活動指標	プレゼンター数	目標	人	30			
		実績	人	25			
	達成率	%	83.33	-	-	-	
	博報賞文庫貸出冊数	目標	冊	200	200		
		実績	冊	0			
	達成率	%	0.00	-	-	-	
講演会の参加者数	目標	人	200	200			
	実績	人	60				
達成率	%	30.00	-	-	-		
成果指標	博報賞文庫貸出者満足度	目標	%	80	80		
		実績	%	0			
	達成率	%	0.00	-	-	-	
	講演会参加者満足度	目標	%	80	80		
実績		%	0				
達成率	%	0.00	-	-	-		
備考	博報賞文庫の運用は平成31年度から。第2回講演会は、2月17日(日)開催。						

事務事業名	読り一むinちの活動支援事業		事業期間	2000	～	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係			連絡先	75-1250	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変果動指要標因分～析	博報賞文庫を設置するにあたり、委員会を開き、選書や使途について検討を行っている。				
	総合評価	<p>成果</p> <p>月夜のおはなし会では、その地域で活動しているグループ、園児などが参加し会を盛り上げている。例年1回だった講演会を、2回にし、より多くの市民に読書に興味関心を持つ機会を広げており、読り一むの活動を周知している。</p> <p>課題</p> <p>他の読書活動グループとの連携や関わりが少ない。読り一むinちの活動、組織についてもっと周知していく必要がある。</p>				
	改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	<p>現状維持</p> <p>現状維持</p> <p>読り一むinちの活動の周知、メンバーの増加につなげるために、博報賞文庫を周知をしていく。また、これから読書活動を行いたいと思っている市民にも活用してもらえようとする。地域、家庭へ読書がより一層根付くように、おはなし会や講演会を開催し、興味関心を持ってもらう。</p>				

作成担当者	伊藤 研一				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	図書館分室運営事業	事業期間	1989 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係（図書館）	連絡先	72-9085	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0202	子どもたちの豊かな心を育む		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	02	こども読書活動推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	分室運営事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	06	事業	07
-------	---------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
 ・茅野市では第2次茅野市こども・家庭応援計画（どんぐりプラン）が策定され、その最終年度にあたり、どんぐりプランに沿った事業である。平成14年度から始まったどんぐりプランにより、居住地などが茅野市図書館本館から離れている市民にも図書館を身近に感じ、利用してもらえるよう、地区ごとに10分室が整備された。  
 ・第2次茅野市こども読書活動推進計画にも沿った事業でもあり、分室でのおはなし会や読み聞かせグループの活動などにもつながっている。

現状と背景（どうして）  
 ・すべての地区に分室を設けることで、市民の身近な場所に図書館がある状態となり、公平に図書館サービスを行っている。  
 ・地区こども館の利用はあっても、本を借りていく人が少ない。  
 ・多くの分室の蔵書は、8割から9割が絵本や童話などの児童本である。

目的  
 受益者（誰のために）  
 ・各地区の全住民  
 対象（直接働きかける）  
 同上  
 意図（どんな状態にしたいか）  
 ・各地区こども館利用者の本の利用を増やす。

手段・方法（どうやって）  
 ・本館から分室へ本の貸し出しを行い、一定期間分室へ設置することにより、分室の大部分を児童書が占めているが、大人にも本を借りてもらえるようにする。  
 ・本館での所蔵期間切れの雑誌（主に手芸や子育て情報、料理など）を分室へ移動し、大人にも利用してもらえるような分室を目指す。  
 ・利用者に本に興味を持ってもらうよう定期的にテーマ展示を行い、図書館の貸出人数と貸出冊数を増やす。  
 ・読書に関する行事（おはなし会）を実施する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	読書活動に関する行事（おはなし会）を実施する	読書活動関係行事実施回数	回	年20回×5分室+月12回×5分室	160
	2						
	3						
	変更履歴						

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	地区こども館利用者の図書貸出人数を増やすこと	分室での図書貸出者数	人	年間分室貸出者数	17,000
	2						
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	年度				
			2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	499,920	500,000			
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	499,920	500,000			
活動指標	読書活動関係行事実施回数	目標	回	160	160		
		実績		143			
		達成率	%	89.38	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	分室での図書貸出者数	目標	人	17,000	17,000		
		実績		12,766			
		達成率	%	75.09	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	図書館分室運営事業		事業期間	1989 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	図書館係 (図書館)		連絡先	72-9085	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項 (改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	蔵書点検を行ったこと等により年間の開館日数が減ったことから、分室での図書貸出者数は前年度から微減(前年比、約99.6%)であった。この要因を鑑みると、開館日数あたりの利用は増えているといえ、一定の成果が得られたといえる。更なる利用増に向け、新刊購入等行う。				
	総合評価	活動指標の目標は達成できなかったが、利用に繋がっていると言えるのではないかと。数字には表れないが、絵本や読書活動に関する関心を高めることで、長期的に見て読書の地盤を整えることに繋がっているのではないかと。				
	課題	成果指標は目標達成出来ていない。本を手にとって貸出に至らない利用者が多いか。来室することの多い幼児・児童向けの資料の購入重きを置いているため、比較的少数の一般・高齢利用者の需要を満たす一般書の充実が図れていない。				
改革・改善の方向性 (ACT)	成果やコストの方向性の内容	現状維持 現状維持 5万円×10分室全体で500,000円の予算は非常に少ないと言えるが、限られた予算の中で古い本や状態の悪い本の買い替えや新刊の購入を、一般書・児童書のバランスを含め、本館職員と分室職員(メイト)とで連携して効果的に行っていきたい。 また、蔵書の配置や展示などの工夫をこらすことで、少しでも利用者が本を手にとれる環境を構築していきたい。				

作成担当者	宮坂 峻				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				